科目ナンバリング	U-LAS06 20029 LJ43						
授業科目名<英訳>	現代経済社会論Ⅰ Contemporary Socio-Economic Theory I			担当者所属職名・氏名	非常勤講師 黒宮　一太		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	法・政治・経済(各論)	使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	金2	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

本講義では、現代社会の政治経済を規定している根本条件について考えるために、それらがいかなる思想史的経緯からもたらされたのかを概観する。なかでも、冷戦終結以降の世界を席巻し、また、昨今行き詰まりが指摘されるようになったグローバリズム（および新自由主義）の問題が何であるかを論じながら、それらへの抵抗、対抗思想として生起している（きた）とされ、ときに「（排外主義的）ナショナリズム」と呼ばれもする保護主義や自国中心主義、移民排斥運動などをいったいどのように考えればよいのかということが中心的な論点となる。

具体的には、20世紀初頭の問題状況を参考にしながら今日の経済社会の課題について論じるとともに、近年「グローバル資本主義の暴走」と指摘される事態を「経済学」という特定の知のあり方との関連から考えていくことにする。また、近年みられる「（排外主義的）ナショナリズム」がグローバリズムといかなる関係にあるのかなど、ナショナリズムの現代的変奏とその意味を考えていく。

以上の議論をとおして、本講義では、今日の経済社会が抱える本質的問題について明らかにしていく。

[到達目標]

１ グローバリズム、ナショナリズム、資本主義などの現代の経済社会を考察するのに不可避な基本概念について、その歴史と思想の把握から、基本的な説明をすることができる。
２ 今日の経済社会の重要な論点が何であるかを講義で解説した知識を用いて自ら見いだし、それについて考察することができる。

[授業計画と内容]

本講義では、以下の各論点につき１～３回の講義をおこなう予定である。ただし、ときどきの「状況」についての総合的な解釈を試みながら講義を展開していく予定であるため、また、受講者の関心や理解度も考慮しながら講義を進めていく予定であるため、各論点をとりあげる順序や回数は変更する場合もある（大きな変更がある場合には、最初の講義において説明する）。

1　グローバリズムのゆきづまり？: グローバル資本主義の機能不全について
2　排外主義的ナショナリズムの活況: 保護主義、格差是正、移民排斥をどう考えるか
3　市場経済の発展が惹起したもの: 20世紀初頭の問題状況、新自由主義とその批判
4　「経済」と「経済学」の関係
5　グローバル資本主義の暴走と経済学
6　グローバリズムは人を幸福にするか？
7　「2つの経済」の対立: 経済のグローバル化とナショナリズム
8　「経済」についての別様の見方はありうるのか

以上に加え、期末試験後にフィードバックを１回実施する。よって、授業回数はフィードバックを含め15回とする。

現代経済社会論Ⅰ(2)へ続く↓↓↓

現代経済社会論Ⅰ(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

学期末におこなう定期試験（80%）、および授業時間内に実施する小課題（小レポート、コメントシートなど、20%）により評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

とくに教科書は指定しないので、講義内で適宜紹介する文献を読んでみることをすすめる。

[その他（オフィスアワー等）]

受講するにあたって特別な予備知識は必要としないが、現代経済社会の諸問題について、政治・経済思想のみならず、幅広い観点から、歴史的かつ哲学的に思考することに関心を寄せる人の履修が望ましい。

[主要授業科目（学部・学科名）]